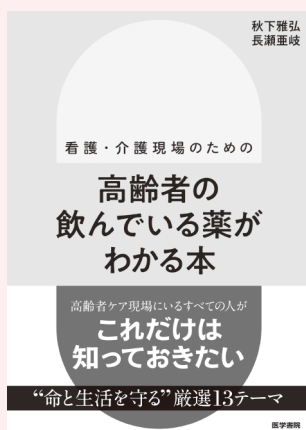


今月の

5冊



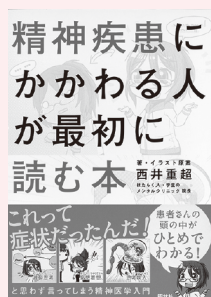
看護・介護現場のための 高齢者の飲んでいる薬が わかる本

秋下雅弘・長瀬亜岐＝著
本体2200円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600

高齢者が療養場所を変えるタイミングは、ポリファーマシーに介入できる大きなチャンスでもある。ただ、そのチャンスを活かすには、「なぜ、この薬を飲んでいるのか？」と疑問をもてるだけの知識が欠かれない。本書では、その知識と視点、そして対応策を、ポリファーマシー対策の第一人者が解説する。薬が引き起こしたと考えられる典型的な事例をもとに、高齢者ケアの現場にいるすべての人が知っておきたいことを厳選して紹介！

精神疾患にかかわる人が最初に読む本

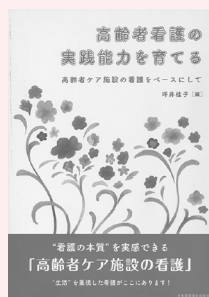
西井重超＝著・イラスト原案
本体1600円＋税
照林社 ☎03-5689-7377



「精神科の講義やテキストは難しくてわけがわからない」。そういう悩みをもつ精神科医療の初心者に向け、基本的なことが簡素に書かれた書。著者がめざしたのは「正解は厳密には言えばこう」ではなく、「大体こんな感じ」を伝えることだという。まずは実践で使えるレベルの必要最小限の知識を身につけたい方に。

高齢者看護の実践能力を育てる 高齢者ケア施設の看護をベースにして

坪井桂子＝編
本体1800円＋税
日本看護協会出版会 ☎0436-23-3271



高齢者ケア施設に新たに入职した新任看護師の実践能力を、施設の教育支援者はどのように育成するか。本書は意思決定支援、疼痛、せん妄、入浴への抵抗、看取りケアプランなどの13シーンを、事例を使って解説。高齢者への看護はどのような視点で取り組めばいいのか。教育支援者・実践者に役立つ基本を理解するための1冊。

介護を仕事にした100人の理由 100歳時代の新しい介護哲学

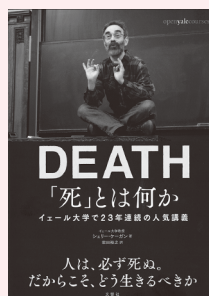
久田恵＋花げし舎＝編著
本体1800円＋税
現代書館 ☎03-3221-1321



決して楽なものではない介護の現場。そこを選んだ介護職たちは、どのような経緯でその職を選び、なぜ続けてこられたのか。本書は現場の介護職らにインタビューし、1人ひとりの物語を描き出し、そこに根ざした哲学を探っていく。「超高齢社会のこの国を支える新たな『介護哲学』は、この現場に生きる草の根の介護職の人たちからこそ生まれてくる」(本文より)。

DEATH 「死」とは何か イエール大学で23年連続の人気講義

シェリー・ケーガン＝著、柴田裕之＝訳
本体1850円＋税
文響社 ☎03-5575-5052



著者は道徳哲学、規範倫理学の専門家。「死」をテーマにした講義は、米国イエール大学で指折りの人気コースなのだとか。本書はその講義内容をまとめたもので、すでに中国、台湾、韓国など世界各国で翻訳出版され、25万部を超えるベストセラーとなっている。丁寧な話運びで「死」を浮き彫りにする疑問を掘り下げ、その本質を見極めんと考察していく。